

# ‘甘平’の摘果による隔年結果防止

着果過多にすると樹勢が低下し隔年結果を引き起こす。連年安定生産させるためには、早期に樹冠上部を摘果し、樹上選果で樹容積1m<sup>3</sup>当たりの着果数を15果を基準に仕上げる。

## あら摘果



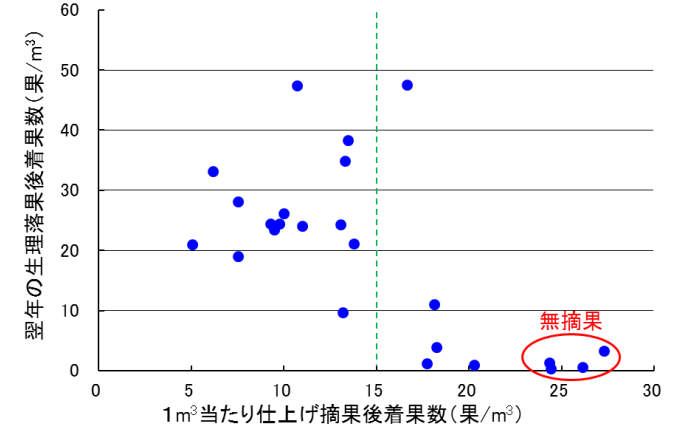
6月下旬～7月上旬 24果/m<sup>3</sup>  
樹冠上部を摘果し新梢の発生を促す。  
側枝単位に着果枝と遊び枝を設ける。

## 仕上げ摘果



7月下旬～8月上旬 18果/m<sup>3</sup>  
葉4枚以上の単生有葉花を残し、3割多めに仕上げる。

## 樹上選果



10月上旬 15果/m<sup>3</sup>  
裂果の発生が少なく、着果量が15果/m<sup>3</sup>を超える場合は、翌年の着果が少なくなる。

## 摘果の目安

—7かけ法—

樹高×長径×短径×0.7  
(南北)(東西)

2.7m×2.5m×2.3m×0.7=10.9m<sup>3</sup>

—樹容積1m<sup>3</sup>当たり15果目安—  
15×10.9=163

適正着果数は160個/樹程度



## 果実品質

着果部位の違いと果実品質 (1月中旬収穫果)

地上高	着色歩合	Brix	クエン酸 (g/100ml)	果梗部緑 (%)
50cm以下	8.0	12.2	1.21	45.5
60～100	8.4	13.0	1.21	47.6
110～150	9.1	13.0	1.12	29.7
160以上	9.1	13.2	1.16	38.5



樹冠下部の内成果は糖度が低く着色不良で果梗部の緑色が残りやすいので摘果する。